

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和7年4月1日	
鳥取県知事 様	
提出者	
住 所 米子市両三柳1880番地	
氏 名 社会医療法人 同愛会	
理事長 石部 裕一	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0859-29-1100	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	社会医療法人同愛会 博愛病院
事業場の所在地	米子市両三柳1880番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	医療業
② 事業の規模	199床
③ 従業員数	455人
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性廃棄物 病院内：排出現場 ⇒ 院内保管場所 委託処理：収集運搬 ⇒ 中間処理 ⇒ 最終処分 (焼却) (埋立)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙1

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	<b>【前年度（令和6年度）実績】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	排出量	128.76 t	t
	(これまでに実施した取組)  廃棄物容器の検討。 抗癌剤使用後の点滴ルートでの廃棄方法の検討。		
② 計画	<b>【目標】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	排出量	103.5 t	t
	(今後実施する予定の取組)  容器や材料、廃棄方法の検討し、排出量の抑制には努めるが、安全に処理が行なえる事を最重要視する必要がある。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 感染性廃棄物で、鋭利な物(20L・50Lペール缶)と鋭利でない物(45L段ボール)に分別し、保管方法、処理方法等の周知徹底を図っている。
② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 感染性廃棄物の取扱いについて、法令遵守の上、研修会等を実施するなど、安全な分別・処理を周知徹底する。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	全処理委託量	128.76 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	128.76 t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) マニフェストの管理、中間処分場および最終処分場の現地確認。 職員全体向けの研修会実施、省エネ対策チームの取組		

②計画	<b>【目標】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	全処理委託量	103.5 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	103.5 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>新型コロナウイルスが5類になったことにより、感染性廃棄物も前々年度に比べ減少となった。、今後も分別等を徹底し、可能な限り排出を抑制するように努める。</p> <p>省エネ対策チーム発足。院内ラウンドを行い分別チェック、月ごとの排出量集計、職員へ掲示等、排出量削減活動実施する。</p> <p>また、安全な取扱いについての研修会等を開催する。</p>		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	<b>【前年度（令和6年度）実績】</b>		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		128.76 t
	<p>(今後実施する予定の取組等)</p> <p>自社ならびに契約中の処理業者もすべて電子マニフェスト導入済</p>		
※事務処理欄			

備考

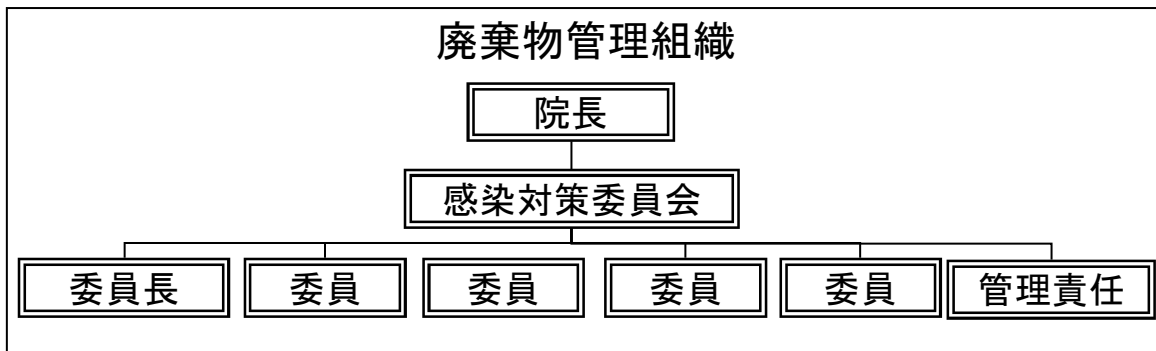
- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

(別紙 1)

**特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項**

(1) 責任者および管理組織図

統括		博愛病院 院長 廣岡 保明
廃棄物担当		用度施設管理課 組織人数:4名
役割	感染対策委員会	○廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。 委員長:呼吸器内科部長 委員:各部署担当者 事務局:総務課
	統括責任者	○廃棄物処理方針の策定 ○事業所の廃棄物管理規定の策定・改廃 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
	担当者	○廃棄物処理計画の策定 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○運搬処分業者の調査、選定および管理 ○委託契約の締結 ○マニフェストの交付・管理 ○監督官庁への各種報告 ○職員、委託業者等に対する教育・啓発 ○その他関係する事項



(2) 管理体制の強化

① 管理体制

病院内の各部署より委員を選出し、感染対策委員会を定期開催しているが、その中で、産業廃棄物(特に感染性産業廃棄物)の検討を行っている。

② 管理方法

廃棄物の排出量を安全に削減する方法の検討を行う。

(3) 教育・研修

発生する廃棄物の種類、処理方法、注意事項について検討を行い、マニュアル等の改訂を行なっている。

また、担当者による、定期的に院内巡回を行い、保管方法等のチェックを行なっている。

(4) 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生、分別等について情報の公開に努める。